

24 9.19

第3種郵便物認可

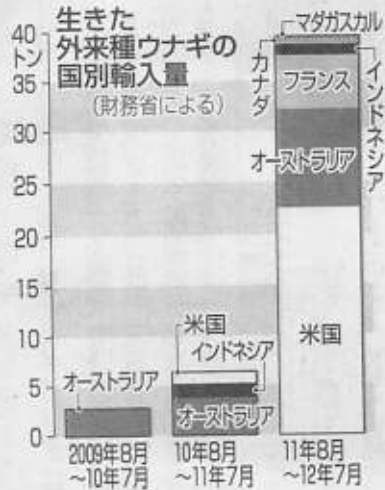
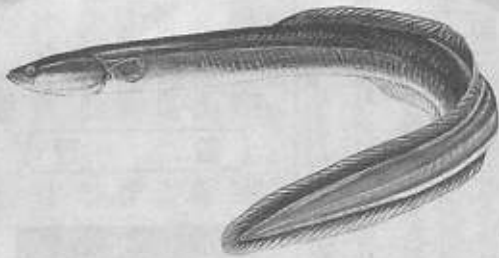
外来種ウナギ輸入急増

40トン、適正表示に課題

1年で6倍超

今年7月までの1年間に米国、オーストラリア、マダガスカルなどから生きた外来種ウナギの輸入が急増、前年同期の6倍超の40トン近くに上ったことが18日、財務省の貿易統計で明らかになった。二ホンウナギが極度の不漁のためとみられる。関係者による

日本の輸入が増えているアメリカウナギ（米魚類野生生物局提供）



と、外来種と表示されて販売されることは少ない。外来種と知らずに消費されているとみられ、適正な表示の徹底を求める声が高まりそうだ。研究者には、外来種が逃げ出したり放流されたりして日本の水域に広がるなどの懸念が強い。環境省が二ホンウナギを絶滅危惧種に指定する方針を固めるなど、資源保護や取引の透明化が課題となる中、外来種の厳重な管理も迫られる。

貿易統計によると、昨年8月~今年7月に、二ホンウナギの生息地以外から輸入された生きたウナギは計39・4トン。米国が22・6トンと最も多く、オーストラリア、フランス、インドネシアの順。カナダやマダガスカルなど過去の実績がない国からも輸入されていた。

実質的に輸出を禁止している欧州連合(EU)の構成国フランスからも5・4トン輸入されていた。いずれの国にも二ホンウナギは生息せず、ヨーロッパ、アメリカウナギなどの外来種とみられる。生きた外来種ウナギの輸入はこれまで少なく、2009年8月~10年7月の1年間は2・7トン、10年8月~11年7月は6・2トンにとまっていた。

日本を中心とする東アジアに分布する二ホンウナギの不漁が続いていることが背景にあるとみられる。